～小学校6年生と一緒に地域ゆかりの栗の木を植えました～

大戸川ダム事業区域に卒業記念植樹

大戸川ダム工事事務所

R6.12.18

○ 大戸川ダム周辺の山々は、露出すると風化しやすくなる「かこう岩」が主体であることに加え、古くから建材や燃料として樹木伐採が行われたことにより「はげ山」が広がり、明治時代から砂防事業が行われてきました。
○ 地域の小学校では、昔から砂防事業について学ぶとともに、はげ山を緑化するための植樹などにも取り組んできましたが、令和４年度からは砂防だけでなく治水や大戸川ダムについても学んでいます。
○ また、令和５年度より、これまで卒業記念として行われてきた植樹を大戸川ダム事業区域で実施しています。
○ 今年は「田上（たなかみ）砂防150周年」及び「上田上（かみたなかみ）小学校創立150周年」であることから、滋賀県の砂防担当者や大津市の担当者も参加して行われました。

【実施日】令和6年12月13日（金）
【場　所】大戸川ダム事業区域
（滋賀県大津市上田上大鳥居町）

【参加者】

○大津市立上田上小学校６年生	１０名
教員	２名
○上田上学区自治連合会	２名
○滋賀県、大津市	９名
○大戸川ダム工事事務所	３名

植え穴掘り

植え付け

支柱建て

最後に参加者全員で、
「大きな栗の木の下で」を歌いました

参加した子ども達の感想

- ✓ 穴掘りが楽しかった。
- ✓ ハンマーで杭を打ち込むのが難しかった。
- ✓ ダムができたら、水が（最大で）この近くの高さまで貯まるのはすごいと思った。
- ✓ 栗が実ったらまた来たい。

『栗の木』の由来

大戸川ダム周辺の地域は、古くは「栗太郡（くりたぐん）」と呼ばれており、平安時代に書かれた今昔物語に「近江の国に、太さ五百尋（約400m）、高さは朝は丹波の国、夕は伊勢の国までその陰が届くほどの巨大な栗の木があった」との伝説が記されていることに由来します。

周辺の山々にも自生し、地域の方にとっても思い入れのある「栗」を、卒業記念として工事用道路脇に生じた裸地に植樹しました。

【問い合わせ先】
国土交通省　近畿地方整備局
大戸川ダム工事事務所　調査設計課
〒520-2144　滋賀県大津市大萱一丁目19-32
077-545-5675（代表）